

1 自己評価及び外部評価結果(1階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100044		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣木戸 1階		
所在地	岐阜県大垣市 木戸町 306-1番地		
自己評価作成日	平成21年9月7日	評価結果市町村受理日	平成21年10月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192100044&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1
訪問調査日	平成21年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、一緒に暮しながら、「喜怒哀楽」を共にし、「ありのまま」の自分の姿があります。スタッフもご利用者様のありのままをしっかりと受け止め、大切にしています。ご利用者様と一緒に外出や食事作り、レクリエーション等、認知症ケアの専門性生かし、支え合う関係を築く事を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の在任期間が長く、その思いは職員に定着し、極めて安定的なホーム運営が行われている。1年間の課題として取り組んだ事項(外出支援の充実)については、家族アンケートでもはっきりと成果が確認できる。ホームイベントへの家族の参加も多く、ピアノ演奏等の直接参画もみられる。年末の「餅つき大会」は、家族(一部行政関係者を含む)の参加数が50名を超えるほどの大盛況であった。地域との交流も盛んで、ホーム便りの「あじさい通信」が地域の各世帯に配布されている。紙面、内容を刷新して、さらに地域社会に役立つ情報誌へと変身することも企画されている。大いに期待したい。毎年、利用者の無断外出事例が話題に上がるが、いつも地域の見守りや協力のおかげで事なきを得たことが報告されている。地域との一体感を証明する事例である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和や実践についても、日常化している。	法人の理念に整合させたホーム独自の理念を作り上げており、分かりやすい言葉で書かれている。職員への周知・浸透も進んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。自治会長、民生員の方々との交流も日常的に行なっています。	前回評価時同様、今回も無断外出の利用者が地域の見守りの甲斐あって無事ホームに帰った例を聞くことができた。地域交流の一大イベントである「秋祭り」は、感染症予防の観点から中止となった。	地域の各家庭に配布されている「あじさい通信」が、地域との交流促進にまた一役買いそうな雰囲気を感じる。「あじさい通信」の紙面改革に期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	拓かれたホーム作りを目標にしている。地域に根ざした関係作りをしている。与えてもらってばかりではなく、こちら側からも地域に貢献をめざしたい。8月から、散歩時にはゴミ拾いをしたり、道路の草むしりなどしながら役に立ちたいとおもっています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催にしています。毎回地域自治会長、民生員、市職員、ご家族の代表者らで、意見、要望などお聞きし、ホーム取り組みなどを報告しています。	外部評価との連動はみられないものの、2ヶ月に1度の運営推進会議が開かれている。ホームからの報告事項や課題について、活発な意見交換が行われている。	自己評価の報告、外部評価結果の検討、改善活動の進捗検証等、外部評価制度との連動は避けて通れない。会議のメンバーにも、この役割の重要性を理解させていただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日ごろ、運営推進会議を通してアドバイスもくださる。相談や質問なども足を運んで顔を見せ協力しちたいでいる。	後継者育成の意味もあって、管理者は各ユニットのリーダーを伴って行政担当者を訪問することがある。担当者からは、有効なアドバイスや情報が届いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止しています。玄関の施錠も外に出たいとの要望があれば一緒に出て行くこととして施錠はしていません。	玄関の施錠を、「身体拘束」あるいは「人権の侵害」として、利用者が大声で訴える事例に遭遇した。管理者・職員は「拘束」を、現実の問題としてとらえている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、スタッフに周知している。疑わしい時など、スタッフ同士で指摘し合うようにしている。特に介護抵抗ある方については、カンファレンスなどを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者ないので、勉強不足の点があり、今後の勉強課題にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、アセスメントをとった時点で、気になる事など、御家族から聞き取り、こちらの対応など理解してもらうようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置をしている。又、面会時とうでも、ご家族の気持ちを引き出すように努めている。	ホーム独自で実施した家族アンケートの意見を参考に、パズル、計算ドリル、ぬり絵、合唱や小イベント等、利用者参加型のファクターを加えた。複数の家族アンケートに、大きな賛辞が寄せられた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの面談や、ミーティングなどで、意見をでてもらう。	職員間のチームワークの醸成が、ホームの理念に掲げられている。ホーム内の会議では、職員の悪口の言い合いにならないよう、管理者・リーダーが気を配っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境条件の整備が整いつつあり、スタッフの意見をだし合う、ミーティングなどで意見を吸い上げている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の仕組みとして、人材育成に力をいれている。各研修や人材育成の機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国に他の事業所を持つ弊社では、ホーム訪問を通じ、質の向上をめざしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前のアセスメントで、その人の生活歴を話し合い、安心できるように、カンファレンス行なっている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>御面会を通じて、要望を伺っています。都度に面談を行なっている、御家族の心知っていくように努めています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所にあたり、ホームに来て、御家族側からも我がホームでいいのか？、面談し「今一番困っていること」を知り、スタッフの受け入れなども、事前にはなしておく。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>御面会を通じて、要望を伺っています。都度に面談を行なっている、御家族の心知っていくように努めています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様と互いに信頼関係を築くことが大切で有り、元気をもらっている事を実感できる。入居が長い方など3年を経過し、気心が分かり合っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>月に1度くらいであるが、外出に協力いただいている。なじみの場所など、家族しか知りえない所、物、人であったりするので、それ以外はスタッフでできる限り行なっている。</p>	<p>利用者と顔見知りの昔の仲間が、タクシーでホームを訪問する。90歳を超しているこの訪問者は、ひと時の間利用者と旧交を温め、またタクシーで帰っていく。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士で、役割りを分担したり、やり取りをみて、ほほえましく思うときがあるが、時にはスタッフも仲間に入って共に活動することがある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を必ず様子を見にいきます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズとご家族の思いが食い違う事がある。帰宅願望の強い方には、ご面会を多くしたり、ホーム内でのレクリエーションを楽しんでもらったり工夫している。	昨年の餅つき大会は、家族の参加が50名を超える大盛況。家族の参加がなく落ち込んでしまった利用者の胸の内を思い計り、職員も暗鬱な気持ちになったが、家族登場で喜色満面の利用者に胸をなでおろす結果となった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を活かして、得意分野を日々のくらしに当たり前のように役割りとして、行なってもらっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の支援として、一人ひとりの生活のリズムをくずさないように、支援しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズが十分に聞きとる事ができず、ご家族や介護者の都合でプランを立ててしまう場合がある。意見やアイデアが出てもらえませんが、実際のケアに結びつくとも限らない。	前回評価では、せっかく聞き取った利用者本人や家族の思い・意向が、介護計画に反映されていなかった。今回評価では、それらが改善されていることを確認した。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重度化してきている利用者様について、スタッフ間で情報は申し送りが重要になってきている。スタッフも出勤すると必ず記録に目を通している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化してきている利用者様に新たなサービスの検討をしている。「夜間入浴や足浴」「その人の関わり深い人の場所への探訪」など...		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御家族では、出来ないホームにしか出来ない関わりの利点を活かし、車椅子での外出などや地域のボランティアさんなども参加していただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診を依頼しております。入居以前からのかかりつけ医があれば、ご家族様と共に受診していただいております。	利用開始当初は、利用者はそれぞれのかかりつけ医を持っていたが、現在ではほとんどの利用者がホームの提携医をかかりつけ医としている。どのかかりつけ医も、月2回の往診に対応してくれる。	ホームとしての意識は、健康、医療、安全面で、万全の対策を講じていると自負していても、家族の目は違う。そのギャップが何に因むのかを検証いただきたい。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問を受け、情報を提供や相談などが出来る体制になっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、直接ドクターから相談があるが、御家族との関係もあって、踏み込めない部分もある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、体制が不十分で受け入れていない。	比較的元気な利用者が多く、まだ終末期を持ち出すのは忍びないとして、終末期ケアの実施には踏み込んでいない。ただ、看取り寸前までのケアの体験は有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会など全員うけているが、実践していないと忘れてしまうので、何度もうけるように、しています。実際に急変の場面に遭遇していて、手馴れたスタッフと共に対応し事なきを得た。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をおこなっている。地域の自衛消防団の協力が得られるようになっています。	前回の防災訓練では、夜間想定避難訓練を実施した。降雨のために屋外までの避難行動はなかったが、訓練から得られた課題や反省点として、「情報伝達」の仕組みの不備が浮き彫りとなった。	防災対策としては「避難訓練」の他、「通報訓練」や「伝達訓練」も重要である。テスト(訓練)を重ねて、習熟度を上げていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの中に人格尊重の意識の希薄さがあり、日々指摘し合える環境を作りをし、優しい声掛けをするように、努めています。	ホームイベントに参加した利用者の家族が、見事なピアノを披露した。得意満面の利用者の姿に、職員は「認知症の人であっても誇りは持ち続ける」ことを再認識させられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様に問いかけ、思いを表出できるように働きかけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに個別の支援を心がけています。シフト上無理がある時もあるので、利用者に合わせてるようにしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に行なう整容には気をつけています。ビューティーアップセミナーなどプロによるものを開催したり、その際によそ行きの洋服や浴衣などを着用し、写真に納まり、お出掛けしたり、男性も整髪量のつけ方やハンドマッサージを施してもらい、楽しみました。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立なども、出身地などで、味付けの好みがあったりするので、考慮している。食事の時には、楽しい話題で食事をしてもらえるように声掛けをしている。誤飲や誤燕にも注意をしている。	要介護度の進んでいない利用者は、厨房に立って調理を手伝っている。庭の畑で採れた野菜が、食卓を飾ることも少なくない。2回のユニットでは、3時に「おやつパーティー」が開かれていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000mlを目安に、飲水としておすすめしています。お茶だけでなく、ジュース、ゼリー、寒天など食べ方を工夫しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを重点を置いています。毎食後、習慣しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンに合わせてトイレにお誘いしています。言葉で言い表せない方落ち着きがない様子を察知して、声掛けし気持ちよく排泄していただいています。	利用者の半数は排泄自立者であり、布パンツを着用している。おむつ着用者はほとんどおらず、排泄非自立者も昼間より八パンで過ごしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取、繊維質の多く含んだ食材など、特に女性は過敏なため、その人に合った物を摂取してもらっています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日中出来る体制にはしています。夜間に希望があった場合も検討します。	最低でも週に2回の入浴を目指している。利用者の多くが入浴嫌いのため、職員は気長な対応を迫られている。シフトを変更することで、夕食後の入浴が可能か否かの検討をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に好きなように、制限などありません。昼夜逆転しない様に日中は目いっぱい、動いて頂く様にします。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人一人が、服薬や服薬管理等を慎重にする事を周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割りを持つての生活はご利用者様にとって張り合いがあり、得意げな顔には生き生きとして、様子を喜びとして支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出るようにつとめています。不穩の場合も外に気分分散することが効果がある。ご家族様にも昔なじみの人、所等一緒に出かけられるように協力してもらっています。	この1年間に最も力を入れて取り組んだ項目である。職員の家の畑へ出かけて野菜を収穫したり、市民コンサートを鑑賞したりした。遠方への外出には家族の協力もあり、家族アンケートでも評価が高かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様から依頼されており、金銭のトラブルを避けることから御自分での所持はしてもらっていません。物を購入する時の承諾などは同意をえるようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望の沿ってかけていただいております。年賀状や暑中見舞いなど手作りの物などを使っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファなどつるげるスペースを用意しています。椅子席はご自分のエリアよぶでと決め込まれておられるようで、他者座るを嫌われる時がある。	事務室は病院のナースカウンターを思わせる作りになっており、居間兼食堂との境を遮るものがない。利用者が気軽に声をかけたり、事務室に入ってきたりするなど、開放的な雰囲気がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされることが多く、居室でこもる事が少ない。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御自分部屋がそのままあるようにと、御家族さまにも理解していただき、なじみの物持って入居していただいております。	これまでの慣れ親しんだ生活を継続させるため、ベッドではなく布団を敷いて寝ている利用者がある。足腰が丈夫な利用者は、自身で布団の上げ下げをしている。	拝見した居室は、いずれも持ち込まれた家具・調度類が少なかった。個別ケアの原点である「その人らしさ」の追求のためには、馴染みの品々を取り揃えることも選択肢の一つとなる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を基本とし、静かに見守るのも介護であることとし、「出来る事はご自分で」と声掛けをしています。		

1 自己評価及び外部評価結果(2階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100044		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣木戸 2階		
所在地	岐阜県大垣市 木戸町 306 - 1番地		
自己評価作成日	平成21年9月7日	評価結果市町村受理日	平成21年10月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192100044&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、一緒に暮しながら、「喜怒哀楽」を共にし、「ありのまま」の自分の姿があります。スタッフもご利用者のありのままをしっかりと受け止め、大切にしています。
ご利用者様と一緒に外出や食事作り、レクリエーション等、認知症ケアの専門性生かし、支え合う関係を築く事を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和や実践についても、日常化している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長の計らいでホーム便りの「あじさい通信」が近隣の各家庭に配布されています。利用者が迷子になった時も地域住民の協力と理解があったことでホームに戻る事ができた。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームが孤立しない様に地域の行事等に参加しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の開催にしています。毎回地域自治会長、民生委員、市職員、御家族の代表者らで、意見、要望などお聞きし、ホーム取り組みなどを報告しています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大垣市の事業者会議など積極的に参加し、他の事業所の方々から、意見、情報を得ています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止しています。玄関の施錠も外に出たいとの要望があれば一緒に出て行くこととして施錠はしていません。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、スタッフに周知している。疑わしい時など、スタッフ同士で指摘し合うようにしている。特に介護抵抗ある方については、カンファレンスなどを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者ないので、関心が薄い、今後の勉強課題にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をもうけて頂き説明しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話す時間を頂いたり、こちらから「何かありませんか？」等と尋ねいます。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や普段でも話せる間柄、雰囲気作りをしています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩をとり、リフレッシュを図っています。お互いに助けあえるように声を掛け合いねぎらって、向上心を持てる様に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内では、リーダー研修など次期リーダー候補など研修を設けています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内での会議研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の日々の生活を良く見て、傾聴を大切にしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合い、常に連絡がとれる関係性を築いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話し合いを進めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な活動を利用者様と共に行ない、互いに助け合って生活しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を依頼し、ホームへ出来るだけ頻繁に足を運んで下さるよう依頼しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行ったり、地域行事へ参加したり、家族の協力で家族行事、地域との関わりを大切にしています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に入れていただき、会話の架け橋や、皆様を巻き込むように支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設などに行かれた方は、見にいかせていただいています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしに近づくように、好きなこととしていただけるように努めています。家族からの情報を大切にしています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に面会時などに聞き、把握できるよう努めます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースや生活リズムを理解できるように、待つ事を大切にしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズが十分に聞きとる事ができず、ご家族や介護者の都合でプランを立ててしまう場合がある。意見やアイデアが出ていっても、実際のケアに結びつくとも限らない。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング、気付き用紙を使い情報を共有し、互いに日々交換、申し送りで話合える場を設けています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の想いを大切に、その都度対応させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームが孤立しない様にホームの行事等に近隣を招いての計画を進めています。利用者様一人ひとりの得意分野をい活かして一つの行事が運営される事としている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に提携医の説明をさせて頂き、他の医療機関は、ご家族様同行でお願いしています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問に思うこと不安な事等、利用者様の变化などを訪問時に相談や報告をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換できるよう家族との連絡をとっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの対応はしておりません。早期に発見し医療機関への連携を図っています。重度化し医療が常時医療を必要となった場合しかるべき機関と連携をとる。特養などの入居予約も御家族でしていただいています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームで避難訓練、防災訓練を年2回実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに違った言葉掛けや場面により、言葉掛けを変えています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、選択肢を2つ以上用意している。「どうしましたか？」声掛けをし、言葉の出ない方には、「単語」で応えてもらえるようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに個別の支援を心がけています。シフト上無理がある時もあるので、利用者に合わせるようにしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな衣類はご自分で選択してもらっています。メイクアップセミナー開催をきっかけで、気持ちはれやかになり笑顔がみられます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、野菜きざみなどスタッフと共に行ったり、後片付けは率先して下さいます。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が十分摂れない方にもついでには時間を掛けてとっていただきます。ゼリーやヨーグルトなどお好きな飲み物など様々な工夫をスタッフ間で出し合っています。時には医師に相談する場合があります。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行なっています。ご自分でブラッシングされたり、介助の方、見守りなど、その人に応じて行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人合った、タイミングを見てトイレにお誘いします。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を沢山とってもらっています。便秘気味な方には、医師と相談しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望時に入浴していただいています。入浴拒否の方には、声掛けをタイミングよく出来る様に工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った睡眠時間を把握して、夕食後などはお茶を飲んで、リラックスしてもらい、気持ちよく寝て頂ける様にしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人一人が、薬の内容を把握できるようにファイルなど用意している。副作用など見やすいように一覧にしてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを知り、ご本人に合った役割りを見つけて活動に参加してもらっています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、御家族と共に馴染みの場所へ外出したり、ご家族の協力を得て出来る様になった。地域資源の利用も活かしていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の要望で、ホームでの金銭管理を任されています。利用料金など心配される方もあって、お金の大切さなど知りえてる方もあります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の承諾を得て手紙を書いておられます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を御家族さまより面会時に飾ってもらっています。壁面も利用者様と共に作ったりし、季節感や記念日などを祝ったりしています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファなどがおいてあり、ゆったりとくつろげるようにし、利用者同士で会話を楽しんだりする姿が見受けられます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御自分部屋がそのままあるようにと、御家族さまにも理解していただき、なじみの物持って入居していただいています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室整理は、毎朝さり気なく行なっています。スタッフが声掛け安全なスペース作りをこころ掛けています。		